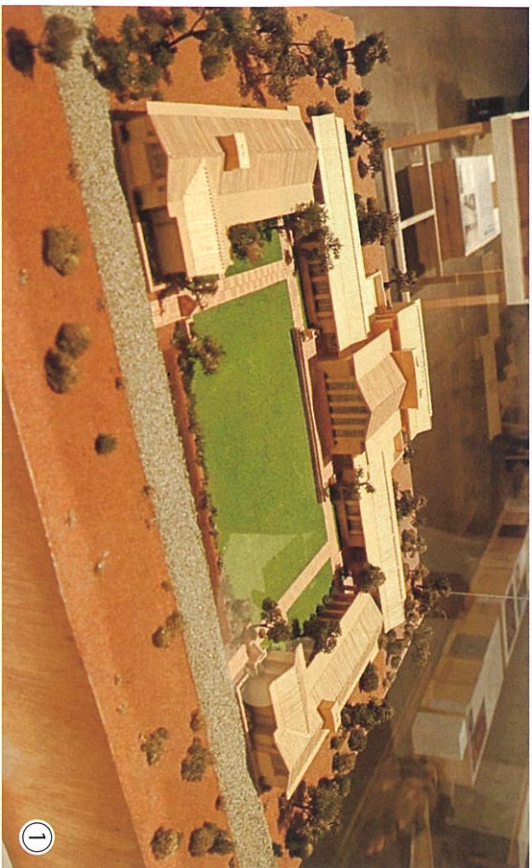


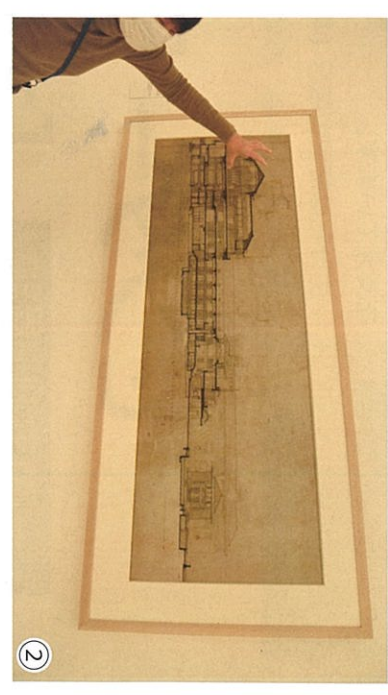


フランク・ロイド・ライト展

青森県立美術館

巨匠の「世界を結ぶ建築」紹介

アメリカ近代建築の巨匠、フランク・ロイド・ライト (1867-1959) の活動と舞台裏を紹介する企画展「フランク・ロイド・ライト-世界を結ぶ建築」が5月12日(日)まで、青森県立美術館で開催されています。若き日に日本の浮世絵に出会い、強い影響を受けながら、芸術、デザイン、著述、造園、技術革新、さらには都市計画などの領域まで広がった足跡を、豊富な資料から明らかにしています。



②

(写真⑥)。

担当した学芸員の板倉容子さんは「15万点に及ぶ資料の研究から分かってきた建築家ライトの世界を、青森県立美術館独自の、床面も活用した展示を通じて体験していただければ」と話しています。

観覧料は一般1,500円、高次生1,000円、中学生以下は無料。詳しくは二次元バーコードのリンク先をご覧ください。

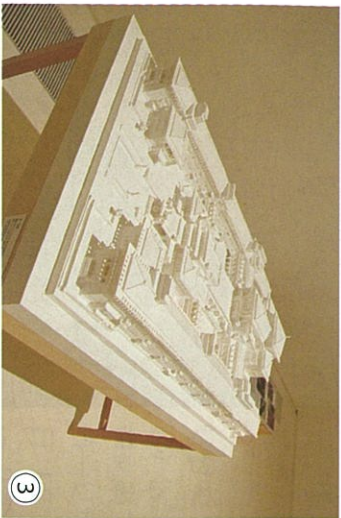


ライトは青年期の1893年、シカゴ万博に日本が出演

した平等院風の建物や、浮世絵をはじめとする日本文化に強い印象を抱きました。受けた影響の大きさは、その後の創作や表現に現れているそうです。

一方、子どものころ農業に従事し、自然を征服するのではなく自然に寄り添う姿勢を身に付けて、世界の多様な文化に触れながら多彩な活動を展開しました。

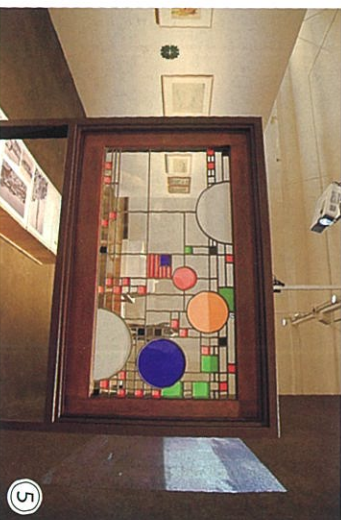
日本の建築では、青森県八戸市出身の教育家・ジャーナリスト羽仁もと子 (1873-1957) が開設した「自由学園」(模型=写真①)や、関東大震災が起きた1923年9月1日に竣工し、災禍を生き延びた東京の「帝国ホテル二代目本館」(図面=写真②、模型=写真③)の



③



④



⑤



⑥

JR 青森駅東口ビル 自由通路が使用開始

JR 東日本が整備を進めている JR 青森駅東口ビル 1階の東西を貫通する自由通路が完成し、3月30日から通行できるようになりました。

自由通路は幅10m、長さ30mです。4月26日にオープンするビルを通り抜け、駅2階改札口や西口に続く階段・エスカレーター・エレベーターと東口の歩道を行き来できます。



JR 青森駅東口ビル開業後には、青森駅2階とJR青森駅東口ビル3階を結ぶ通路も使用できるようになり、今後は、駅ビル LOVINA (ラビナ) と JR 青森駅東口ビルの2・3階を結ぶ通路も整備されます。

青森駅一帯は2021年3月、線路をまたぎ東西を結ぶ自由通路と新しい駅舎が完成しました。この時、東口の新しい階段とエレベーターの使用、さらに翌2022年



1月に上りのエスカレーターの使用が開始されました。

今回の JR 青森駅東口ビル内自由通路の完成に伴い、下りエスカレーターも使用できるようになりました。

一方、旧青森駅舎とラビナの間の空間、通称「エビナ」にあった仮通路が役割を終えました。

5月下旬頃には青森駅東口駐車場の利用が始まる予定です。



新青森駅を彩り15年目

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑤4

華道部員、改札前に生け花

新青森駅の東北新幹線改札口前に、見事な生け花が飾られています。駅に近い青森県立青森西高校の華道部が、2010年12月の駅開業から休まず花を飾り続けています。今年はその活動が始まって15年目。同校「青西おもてなし隊」と足並みをそろえて、青森市の玄関口である駅の彩りを支えています。



生け花は毎週金曜日（冬は隔週）の放課後、部員

らが毎回、交代で交換しています。取材日は部長の鎌田彩花さん（3年）が花を生け、部員の斎藤優乃さん（2年）が見守っていました。

華道部の指導に当たっているのは、原流青森県支部連合会会長の伊藤由理子さん（青森市）です。同校の第2期生で同窓会長も務めています。

「毎日、大勢の人が駅を使います。訪れた人が、青森に良い印象を持つてくれるといいな」と鎌田さん。高校に入ってから華道を始めたといい、色や形の配置を考えながら、30分ほどでビバーナムとフリーズ、スイトピー、てまり草を生け終えました。



花を入れたケースには、生けた部員の名前も紹介されています。中学の時から生け花に親しんでいる斎藤さんは「駅を使う中学時代の友人が『花を見たよ』と声を掛けてくれたのがとてもうれしかった。先輩の姿からしっかりいろいろ学びたい」と笑顔を浮かべました。

伊藤さんは「花の本数が多いとなかなか大変ですが、生徒たちが自由な発想で工夫し、楽しみながら成長していく姿が素晴らしい」と話していました。（上の写真は左から伊藤さん、鎌田さん、斎藤さん）

三内丸山遺跡 「さんまる縄文体験」参加者募集

センター5周年「恵みの海と縄文」展

三内丸山遺跡センターは今年で開設5周年を迎えました。記念特別展の第1部「恵みの海と縄文ー陸奥湾と三内丸山ー」が6月23日（日）まで開かれています。

三内丸山遺跡からはヌダラ・グリ・ヒラメといった魚の骨、釣り針など漁の道具が出土しています。また、陸奥湾沿岸の遺跡からは、縄文の人々が塩をつくった土器が見つかっています。

記念特別展は、「陸奥湾をひもとく」、「海と生きるー三内丸山ー」、「恵みの海と縄文遺跡」の3部構成で、陸奥湾のさまざまな生き物と縄文の豊かな暮らしのつながりを解き明かします。

観覧時間は4月26日（金）までと5月7日（火）～31日（金）が9:00～17:00、大型連休の4月27日（土）～5月6日（月・祝）と6月1日（土）～6月23日（日）が9:00～18:00、4月22日（月）と5月27日（月）は休館日です。

料金は一般700円、高校生・大学生350円、中学生以下は無料。特別展の観覧料で遺跡を含む常設展も見る事ができます。

また、「さんまる速報展！2023」を6月23日（日）まで開催しています。

三内丸山遺跡では2024年度、「さんまる縄文体験」を開催します。各回の概要は次のとおりです。

◇ いずれも無料、事前申込制、先着順、対象は小学3年以上。ただし小学3・4年生は保護者の同伴が必要）

◇ ヲ「発掘をしてみよう」（遺跡内で発掘調査を体験）＝7月26日（金）①10:00～11:00、②11:00～12:00、③13:30～14:30（各回5名、7月9日・火まで申し込み、雨天中止、時間帯は指定不可）

◇ ヲ「土器を作ろう」（粘土を使って縄文土器作り）＝8月17日（土）9:30～12:00、②10月19日・土・9:30～16:00（1回目が縄文土器作り、2回目が野焼き。2回とも参加できる場合にのみ受付。定員20名、7月31日・水まで申し込み）

◇ ヲ「貝のアクセサリーを作ろう」（ペンケイガイで腕輪などのアクセサリー作り）＝9月7日（土）10:00～12:00（定員25名、8月21日・水まで申し込み）

◇ ヲ「土偶を作ろう」（三内丸山遺跡から出土した土偶を手本に板状土偶作り）＝10月5日（土）10:00～12:00（定員25名、9月18日・水まで申し込み。土偶は後日焼成してお渡し）

◇ ヲ「縄文時代の針を作ろう」（イノシシの骨で縄文時代の針作り）＝11月9日（土）10:00～12:00（定員20名、10月23日・水まで申し込み）

◇ ヲ「石のアクセサリーを作ろう」（石に穴をあけて縄文時代のアクセサリー作り）＝12月21日（土）10:00～12:00（定員20名、12月4日・水まで申し込み）



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（GWと6月1日～9月30日は18:00）
休 館 日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観 覧 料 一般410円（380円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下 無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金・展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット展示で割引特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）
〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL 017-766-8282 / FAX 017-766-2365
URL <https://sannaimaryama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休 館 日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）、5月14日・15日
※企画展開催時、展示替えにより変更する場合があります。
観 覧 料 一般900円（700円）／高校・大学生500円（400円）／小学生・中学生100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金およびAOMORI GOKAN アートパス 2024 公式カードが特典「スナプラリー」＆バスポート「提示割引料金」※心身に障りのある方と添着1名は無料
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット展示で特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）
〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL 017-783-3000 / FAX 017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウソト

< ネット情報 >

Facebook ページと Instagram アカウソトを開発し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楳引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部 楳引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp



FB ページ



Instagram



青森大学 社会連携 センター